

「監憲録・浜松告稟録」

——史料翻刻——（四・完）

神崎直美

「自天保三年壬辰正月

至同七年丙申十月

浜松告稟録 七・八・九・十」（表紙）

目録

「〇天保三辰年正月」（朱筆）

「一」御家中養子之儀二付、評義之 御書付

「同年五月」（朱筆）

「二」一御領中百姓・町人道中同道并荷札等渡間鋪儀御触之儀二付

御書付

「三」一廻村方之儀、評議之 御書付

「四」一心得之ため被成下候 御書付

「同年五月御勝手方」（朱筆）

「五」一檢見仕方之儀、御改革評儀之儀二付 御書付

「同年六月」（朱筆）

「六」一老共手限仕置及差図候儀二付 御書付

「七」一廻村方御見合之儀二付 御書付

「八」一死失之者、名上亡字不認様 御書付

「同年八月御勝手方」（朱筆）

「九」一檢見并見分御改革之儀、老共評儀之 御書付

「同年十月御勝手方」（朱筆）

「十」一雄嶽御修復并御取締之儀二付 御書付

「同年十一月」（朱筆）

「十一」一御渡之 御書付類扣置分、源左衛門族認可差上旨之 御書付

書付

「同年閏十一月」（朱筆）

「十二」一田畑見分手早下方悦候由二付 御書付

〔朱筆〕一 御直書付写之儀ニ付 御書付

〔〇〕天保三辰年正月

〔朱筆〕辰正月
家中養子之儀ニ付、評義申付候
書付

家中之輩、他家ハ養子之儀、向後親類統合有之分者格別、先者可成丈家中内ニ而養子いたし候様可心得旨、先達而相達候處、家中内ニ而者、強而人物を撰候様ニも不相成、年比之者ハ養子成候様成行候間、却而若輩之者とも、文武稽古事并行跡迄も心掛薄、等閑ニ相成不為之義有之、其上年齡等ニ依て差支候義も可有之候間、以来養子之儀、前々之通可申付と存候、何れも致評義可申聞候、右者、兩地評義可致候、尤、是迄之姿可然と申見込候ハ、居置候而も可然候得共、年齢等ニよつてハ、大分差支之向も相見候間、改之儀心付候、何れも可有評義候

辰三月

同年五月

〔朱筆〕辰五月
〔二一〕領中百姓・町人道中同道并荷札等相渡
問敷触之義、申遣候書付

家中士輕共道中いたし候節、用向之外者領中百姓・町人同道致問

敷候、私之儀ニ而茂無摠子細有之不致同道不叶節者、其段委細申立、老共可任差図候

一 百姓・町人荷物を相頼候とて、用向之外者私ニ差札等相渡、自分荷物ニ交候義杯、一切仕間敷候、縦ひ用向之品たりとも不申立候て、為差出申間敷候、私荷物交候義も無摠子細有之候ハ、前件同様申立可任差図候

但、領外百姓・町人之儀も、本文兩件ニ準し、用向私之儀共申立候上、同道并荷札等渡可申候

右之通、以来急度相心得可申候、等閑之輩ハ、可為越度事

辰五月

右之通觸置可然与存候、無存念候ハ、兩地共触候様存候

〔朱筆〕辰五月
〔三二〕廻村方之儀、評義いたし候様申遣候書付

近来別而下方難渋多人氣不穩由ニ相聞候、早竟下方之義、上江不通故ニ候、依之勤弁候處、歩横目共不絶村方杯風聞申出候得共、是ハ兼々手筋之者を扱置聞出候而申事故、一般と者不行届候、近来丹羽左京大夫在所杯ニ而ハ、千石取住之者ニ而手堅之者を撰ひ、宍僕手弁当ニ而不絶廻村いたし、下方之義聞出申出候由、政事方右之申出方ニ而差引有之、大ニ人氣立直り候由承り候、此方領分ニ而も、右之義相始メ候て、下方之様子初相分、心得相成可然存

候、凡左之趣之規定ニも可相成哉

一廻村方と相唱へ馬廻りとも之内、手堅差働も有之者を撰ひ、私ニ殺生などに出候様ニいたし、野服着用一僕召連、手弁当ニいたし、村方ハ百姓家などニ而、随分軽くいたし、湯茶もらひ相弁、村方下々迷惑・不迷惑之儀聞糺し、帰宅之上廻り先き之儀、翌日ニも認出し候様可致事

一遠村之分ハ、手弁当ニ而、出泊ハ庄屋宅ニ而も何方ニ而も相對ニ而、自身旅行同様之心得ニ而、宿銭等少々能敷程ニ払ひ可遣、又、弁当こしらへもらい廻村可致候、宿銭等之儀、高相定可申事

一村方庄屋・百姓家・寺社ニ而湯茶もらひ候とも、必心付銭払遣可申候事、是又定可申候

一步横目ハ、用向ニて内々之処を相操申出候役筋ニ付、村方ニ而も表向不存姿ニ候、廻村方之儀ハ、表立下方之難渋・不難渋を承り候事、右趣意違候事

一承方之儀ハ、休候百姓家、又往来之百姓等農業いたし居候者等へ、直ニ承候事を可申出事

一右ハ用向廻村之義ニ候得共、外役ニ付出役と申ニ無之、万民之為メ之儀之廻村ニ候得者、農業其外之者も下座等ハ不致様ニ心付、たとひ笠取かゝり候とも不取為、下座杯いたし候とも、聊も農業并職業之支ニ相成候様之儀ニ候ハ、かたく差留可申事
一百姓ともにも、銘々之為ニ廻村申付候者ニ候とも相心得、聊厭候様之人氣ニ不相成、却而廻村方を待受候様ニ相成候様可心得事

一家中之者、自身村方へ出候得者、下方ニ而も家中之取扱ニいたし

可申候得共、廻村方之儀ハ、自身之出歩行ハ茂格別ニ軽く相心得、万事格外之訳ニ心得可勤候事

右等之趣意ニ而廻村いたさせ候ハ、迷惑も有之間敷候哉、猶厚評義可申越事

辰五月

〔朱筆〕

心得之ため書付

辰五月
西丸御小姓組番頭
曾我伊賀守組
春日左門

右之者、兄之妻と不義いたし居候処、自然及露頭、兄之妻書置をいたし自殺いたし、其後左門義も自殺仕損し候趣相聞、糺中頭分歎之義申出、前件之始末ハ不申立内済ニ相成、左門義ハ病氣ニ付、小普請願候様 御沙汰ニ付頭江申達、其通相済

右同人組

羽太求馬

右之者、悴・家来等申談、客来有之節、娘を酌取ニ出し、為致不義候上、彼は六ヶ鋪申懸、金子ねたり取致内済候義、是迄度々有之、此度奥詰相勤居候小角市右衛門罷越候節、同様之仕義ニて、金子五十兩差出致内済候、奥儒者成鳴邦之丞など立入、漸相済候

由、然處年来度々之処者不表立相済候得共、此度ハ奥江茂かゝり候事故、如何可有之と頭分茂内々申出、病氣小普請之儀伺出候、何も評儀之上、奥へかゝり候処、病氣小普請ニ而者御取締ニも拘り候間、此度も御詮義相成可然候、乍去上分被 仰出候而者、頭之一向不存姿ニ相成敷敷候間、頭分吟味願申上候方と相定伺候處、其通相済、近日吟味願有之積り

西丸奥医師
聖春院嫡孫

西丸奥いし
山本宗瑛

右之者、身持不埒ニて、聖春院養娘と致不義候儀者、表へ不頭、此度吉原町遊女之内、豪家之者へ為受出候処、宗瑛儀、兼而受出候積り之処、不行届右様相成候得共、右女者光方分宗瑛方へ欠込候而、何分不立戻候、右之趣相聞、病氣ニ付奥医師為願候様、御沙汰ニ付、相願寄合被 仰付、御宛行只今迄之通り被下候而相済

右三ヶ条者、家中仕置取計之節之手心ニも相成候間、内々申付為心得為見申候、浜松江茂序ニ連候様存候

辰五月

「同年五月、御勝手方江被成下」(朱筆)

〔朱筆〕
〔五〕

辰五月

検見仕方之儀ニ付、改革評義いたし候様
申遣候書付

領分不作之節、検見願出候時、出役人数減候様申付候處、代官共差出候書付之趣致一覽候、右ニ而者、人数も御料所分者減有之候得者、此上減方之儀ハ、追而沙汰可致、夫までハ先仕来之通、出役可致候

一 検見五歩以上之不作ニ候得者、出役其以下ニ候ハ、不及出役旨仕来之通ニ而可然候

一 検見として出役之上ハ、成丈手早之仕廻候義專一之旨、認有之処、

左ニ寅年不作検見之節ハ、五・六百石位之村方ニ而も、四泊り位

ニ而一泊りニ金五兩位ツ、入用相掛り、殊之外下方難洪候由、又

ハ出役之内勝手之由ニ而、自身料理いたし候杯申、入用之品々取

寄、下方難洪之由、右等之儀ニ而人氣不宜外ニ而も、浜松検見仕

方、如何敷趣風説有之由、出役之上ハ下方難洪不致、萬事手軽く

相済、不経日数仕廻候様可致專要之處、書面之上計ニ而、事跡相

違候段、如何敷不都合之事ニ候

一人氣ニ拘り候義ハ、不容易義候間、以来出役候上者、下方不致難

洪、手廻能相済候様、見分之仕法并料理向品数までも、改革いた

し、書付可差出候

一去々寅年、綿不作ニ付、検見相願候処、願之通可致出役旨申渡、

村方ニ相伝罷仕候処、日数おくれ、綿及び仕廻候而茂出役無之、

麦仕付時分ニ相成、無據綿之間へ麦まき付候由、此儀ハ如何之趣

意ニ候哉、殊更風聞も不宜人氣も不穩候、誤合も可有之可書出候

一所々より検見願候村方、出役迄ハ間茂有而其中束（むす）を嫌、不作ニ

無之、見分不受田畑之分ハ、出役以前ニ為刈取、不作之分計見分受候由相聞候、浜松杯如何ニ有之候哉、下方望之方ニ候ハ、前件之趣ニ相成候とも、不作之田畑見分之趣意ニ支も無之事と存候、此義評議并下方をも相糺可申上候事

一 檢見之儀、手輕相濟候得者、下方度々出方之儀も、大相ニ申立願候様ニ成行候間、下々難洪ニ存候、成丈不願候様之心得ニ候由、是ハ甚不都合之事ニ候、上合右様不実之心底ニ而差引候間、下々ニ而茂同し合、不実之義申出候様ニも可相成候、檢見之義ニ早竟不作難洪之救ニ見分いたし、引米等いたし遣候事ニ候得者、右様之不実ニハ有之間敷事ニハ、依之以来ハ上より之差引も、右之趣意ハ更ニ相改メ、実々下方難洪を赦候心得ニ而、萬事仕法付可相伺候事

一 不作五歩以上ニ無之而ハ、檢見無之由、右ニ而下方難洪も無之候得者、宜敷候得共、若し難洪ニ候ハ、五歩以上之節ハ、郡奉行初メ是迄之通致出役、五歩以下之節ハ、代官地方等組合兩人并手代等程能召連、手輕く檢見いたし遣候而ハ、如何可有候哉、右存念をも加へ、無差支候ハ、評義も可申付候
右之趣意申遣候、猶又下方難洪不相成候様能々勘考之上、郡奉行・代官等へ申付、前件之義可書出候事

辰五月

別紙帳面書付上候時、相添可進上候

同年六月

〔朱筆〕
〔六〕

辰六月
老共手限仕置及差図候様申遣候
書付

家出いたし尋中立帰候一件、吟味伺書郡奉行等差出候節、博奕少、其外子細無之分ハ先例見合、以来老共手限及差図、追而吟味書へ
〔開カ〕
耳書いたし可差越候、先例無之分ハ、是まて之通伺可申候

辰六月

〔朱筆〕
〔七〕

辰六月
廻村方評義之儀ニ付、猶又申遣候
書付

廻村方之儀ニ付、評義之趣致熟覽候處、何様遠州ハ人氣茂六ヶ敷、たとひ下方弃理之儀ニ而茂、新規之義ハ不好由、何方も先同様之事と存候、是迄と而も別段廻村方等無之而相濟候間、只今急ニいたし、却而人氣を勤候而ハ如何ニ付、先暫見合、追而人氣も穩ニ相成候時ニ、下方差支をも相糺候上、初め可申哉、猶其時之模様ニ寄て可申付候、何も当時之處ハ見合可然候、猶存寄も有之候ハ、可申越事

辰六月

〔朱筆〕八

辰六月
死失之者、名上江亡字不認様申遣候書付

死失之者之儀、書付方亡誰と認候事茂有之候、亡之字ハ忌敷候間、公儀ニ而も一向不被用候ニ付、並通之故文字用候様、先年目筆ハ為申遣、其後暫相改候処、又々近頃亡文字多相用候故、文字茂相見、兩様ニ相成候上者、何ニ而も不差支事と存候、以後死失之者、名前上ハ亡字相止メ、故字相認可申候、目付方其外諸役ハ書付出候同様ニハ、追而改候様可申付事

辰六月

〔朱筆〕九

同年八月 御勝手方江被成下

辰八月
檢見并見分改革之儀、老共評義候様申遣候書付

檢見仕方之儀ニ付、改革評儀、代官共書面差出候、致一覽候処、第一檢見并見分等手輕ニ相成候而者、村方ニ而茂容易ニ相心得、少々之不作も偽候而大惣ニ申立、見分願出候様成行候間、手重ニ而村方難渋候も、宜敷と申様ニ相見候、此儀、当時村方之風義ニ相成居候事も可有之候得共、早竟上ハ正道ニ不致、右様之謀計を以下情を論候故、下方も同く偽等申立候様ニも可成行所、何敷事ニ存候、且又見分願書差出候得共、必一・兩度ハ差返候定法之由、不

作之立毛見届願出候を差戻候内ニ候、日数もかゝり自然蒞入時節

後ニ相成、綿之間へ麦を時付候様之義も可致出来候、是又前件同様上ハ不正を教示之筋ニ相当り、如何敷事と存候、何れニも改革候上ハ、永々下情も引立、取締ニも相成候様ニ無之而ハ、無詮事ニ付、右等厚相含差図振ヶ条押ニ、老共評義之趣書付可差越候、先達而差出候三月之帳面之方をも、今度更ニ致評儀申越候様可致事

但、代官ハ差出候帳面、式冊とも相添可差越候事

辰八月

〔朱筆〕十

同年十月 御勝手方へ被成下

辰十月
雄嶽修復可申付旨、并以後取締可頼義書付

雄嶽修復之儀、見分書之通申付候様存候
一雄嶽修復度々いたし候處、無間損し出来候、今度も修復申付候、以後平日共、他人不立入損所等不致出来候様心付有之度、小笠原江頼遣候而者如何可有之哉、勘弁之上小笠原老共へ、此方ニ而申遣候様存候

辰十月

同年十一月

〔朱筆〕
「十一」

辰十一月

渡候書付類書出候様申遣候書付

先年公政事向其外ニ付、直ニ認候書付類、同添候書付帳面類等、此方扣之内焼失之分も有之候間、追々浜松江扣置候分、写取便之節々段々可差越候、右ハ源左衛門族兩人ニ而、美濃帳江写可差越候

但、勝手方之分茂掛合、年号月順ニ可認入候

辰十一月

同年閏十一月

辰閏十一月

〔朱筆〕
「十二」

田畑見分早く下方悦候由ニ付、代官共へ

申聞候様書付

田畑見分当年公郡奉行相止メ、代官兩人ニ相成、其上是迄十日も懸り候見分、六・七日ニ而相濟、手廻し能、人数少ニ而、村方近在迄も悦候由相究候、趣意之通行届候儀ニ存候、猶又心付成丈手早く取調、村方難渋相劣候様、代官共へ可申達旨、郡奉行へ申論可然候、猶勘考可取計候事

辰閏十一月

〔朱筆〕
「十三」

辰閏十一月

直書付写越候儀ニ付書付

直書付類写差越、致一覽候處、下知書等混雜ニ而者難見分候間、左之通相分ケ候而可写越候

一 政事向ニ付、書付類

右一部

一 仕置

一 下知書

一 仕置筋ニ付、郡奉行等へ申遣候書付類

右一部

右、美濃紙一枚堅帳ニいたし、細書ニ無之相認可申候

辰閏十一月

目錄

〔○天保四年二月〕〔朱筆〕

〔一〕一小折本御分限帳、別三折仕立之儀ニ付 御書付

〔二〕同年三月〔朱筆〕

〔一〕御書付御帳面類写可差上儀ニ付 御書付

〔二〕同年四月〔朱筆〕

〔一〕一弓術御目付共見分之儀ニ付 御書付

〔四〕一源左衛門族認物之儀ニ付 御書付

- 〔五〕^{〔朱筆〕}一大納戸奉行書上書法不都合之儀ニ付 御書付
- 〔六〕^{〔朱筆〕}一借金銀御定書写可差上儀ニ付 御書付
- 〔同年四月、御勝手方〕^{〔朱筆〕}
- 〔七〕^{〔朱筆〕}一御勘定帳書法、当巳年分書改可申儀ニ付 御書付
- 〔八〕^{〔朱筆〕}一辰年御勘定帳ヶ条之儀ニ付 御書付
- 〔同年六月〕^{〔朱筆〕}
- 〔九〕^{〔朱筆〕}一源左衛門族取調候認物目録之儀ニ付 御書付
- 〔同年七月〕^{〔朱筆〕}
- 〔十〕^{〔朱筆〕}一小河三郎転役 御趣意之 御書付
- 〔十一〕^{〔朱筆〕}一松野尾治兵衛・宮部剣太郎歩横目共申渡之儀 御書付
- 〔十二〕^{〔朱筆〕}一宿助人馬出入之儀ニ付 御書付
- 〔十三〕^{〔朱筆〕}一諸社江御初穂之儀ニ付 御書付
- 〔十四〕^{〔朱筆〕}一鎗物之儀ニ付 御書付
- 〔同年七月、御勝手方〕^{〔朱筆〕}
- 〔十五〕^{〔朱筆〕}一笹本三郎心得方可申渡儀ニ付 御書付
- 〔同年八月〕^{〔朱筆〕}
- 〔十六〕^{〔朱筆〕}一御直書付写ニ而可相触儀ニ付 御書付
- 〔十七〕^{〔朱筆〕}一御家中江触候 御直書付
- 〔十八〕^{〔朱筆〕}一御城代御定稿之儀ニ付 御書付
- 〔十九〕^{〔朱筆〕}一御城代御定御稿
- 〔二十〕^{〔朱筆〕}一御領分絵図仕立可差上旨之 御書付
- 〔廿一〕^{〔朱筆〕}一御歩士勤番人数不足ニ付 御書付
- 〔廿二〕^{〔朱筆〕}一御国高調方之儀ニ付 御書付
- 〔同年九月〕^{〔朱筆〕}
- 〔廿三〕^{〔朱筆〕}一宿方同意之歩横目共、転役之儀取調之 御書付
- 〔廿四〕^{〔朱筆〕}一宿助出入此上治り方評議之儀ニ付 御書付
- 〔廿五〕^{〔朱筆〕}一郡方支配之者、長々御城下江出張居候儀ニ付 御書付
- 〔廿六〕^{〔朱筆〕}一故富岡加兵衛・宇津木八郎腰物之儀ニ付 御書付
- 〔廿七〕^{〔朱筆〕}一御城代御規格案之儀ニ付 御書付
- 〔廿八〕^{〔朱筆〕}一小河三郎宅江、兵学稽古ニ付、多人数集会之儀ニ付 御書付
- 付
- 〔同年十月〕^{〔朱筆〕}
- 〔廿九〕^{〔朱筆〕}一宿助出会之儀ニ付、吟味方等日数本陣へ出候ニ付、再応被成下候 御書付
- 〔三十〕^{〔朱筆〕}一宿助人馬立方出入懸り之者、褒美有無之儀評議之 御書付
- 〔卅一〕^{〔朱筆〕}一大納戸ニ而悪穢之品不取扱段申出候付 御書付
- 〔卅二〕^{〔朱筆〕}一步横目中島喜一^{〔マ〕}六宿方之者へ 御直尋之様子咄候儀ニ付 御書付
- 〔同年十二月〕^{〔朱筆〕}
- 〔卅三〕^{〔朱筆〕}一御国高調之儀ニ付 御書付
- 〔卅四〕^{〔朱筆〕}一御目付方取調事、條理無之儀ニ付 御書付
- 〔天保四巳年二月〕^{〔朱筆〕}
- 〔一〇〕^{〔朱筆〕}天保四巳年二月
- 〔一〕^{〔朱筆〕}御別紙

小折本分限帳手元ニ而致焼失候間、此後差越候ハ、如例引換相成候様、別ニ折仕立置可申旨、浜松江可申遣候

〔同年三月〕(朱筆)

巳三月

書付帳面類写越候儀ニ付申遣候書付

此度源左衛門族取調写越候書付類者、当番所ニ有之向迄ニ茂限とす、夫々之役筋ハ為見候様、又者渡候様申付遣候書付・帳面類、老共今夫々役筋江渡置候分も直申付候分者写可差越候事

同年四月

巳四月

弓術目付見分之儀申遣候書付

弓術見分折々有之候得共、其前ニ以後毎月一兩度ツ、目付方計ニ而致見分、一ヶ年皆中之者并年々調、三ヶ年目位ニ而褒美遣候様可致候、勘弁次第可取計事

巳四月

〔四〕(朱筆)

巳四月

源左衛門族認物之儀ニ付申遣候書付

此度源左衛門族認差越候書付之内、政事向之内江仕置筋之義、多分混雜有之候、仕置筋ハ其分之帳江認候様可致候一定書之分、直書ニ而も写ニ而も認入可申候、寄合小普請定并目付方（總）密糺方心得などの類、帳面之分も写越候様存候

巳四月

〔五〕(朱筆)

巳四月

大納戸奉行書上書法不都合之儀ニ付申遣候書付

大納戸奉行毎月差出候書上之書法、先月之末江当月之分書統可申処、近来月々書出候新ニ相成帳面とち足し、不都合ニ有之候、全新役相成候故、不弁之事与存候当役之者今井上九藏等江承合、以後前段之通書法致し可書上旨可申達事

巳四月

〔六〕(朱筆)

巳四月

借金銀定書写差越候様申遣候書付

借金銀取扱定、先達而遣し郡奉行へ相渡候事与存候、右定書、

源左衛門族之内写し候ハ、可差越候

巳四月

〔七〕
〔朱筆〕

巳四月
勘定帳書法、当巳年ハ書改可申儀
申遣候書付

勘定帳書法之儀、最初取立候節ハ、度々往返もいたし、混雜ニ付、先大低出目出来候迄ニいたし置候処、最早年々之分出来手馴候様子ニ付、当巳年勘定帳仕立候節ハ、書法改可申候

一 払ヶ条之内、先々手元上初ヶ条ニ候処、当時左無之候書分候而ハ、混雜ニ付扣帳へ致附札候通り之順ニ、当巳年ハ可致外ヶ条も附札之順ニ可致候

一 右同前之内

三百兩 御化粧料方々様上之分

右方々様と一綴ニ相成候而ハ難分候

何程 何様御化粧料上之分

何程 何様御化粧料上之分

右之通、高分ニ可認候

右ハ、当巳年之勘定帳ハ可書改候、去辰年迄以前之處、此後も遂々可取立候得共、其分ハ是迄之順立書法ニ為置可申候

巳四月

扣帳可返越事

〔八〕
〔朱筆〕

巳四月
辰年勘定帳ヶ条之儀申遣候書付

辰年勘定帳、江戸運送訳書ヶ条

御婚姻御入用之内、臨時送之分

右ハ、誰婚姻入用とも不相分候、後年之為ニ候間、何姫婚姻入用と可認候、先辰年之分ハ、清書も出来候事故、右肩書ニ加へ置可申候、扣帳へも可書加候

右本帳ハ、直浜松江御留置可申候、扣帳ハ可返上候

巳四月

同年六月

〔九〕
〔朱筆〕

巳六月
源左衛門族取調書付認方之儀ニ付、
申遣候書付

源左衛門族取調候書付類之内、遂々目録も認差越候由見出しニ相成、至極宜敷候、書付と計上書有之分ハ、本文之事柄をつまみ程能銘を付候而、目録ニ認候様可致候

一 仕置下知書之義、家中へ懸り候分并其外定例も余程事連り候分ハ、認入可申、常体之分ハ同様之義ニ付、以来不及認越候

巳六月

御別紙

此度規定書目六別紙差越、見合之弁理ニ相成候、右振合ニ而外書付之目六も仕立差越候様、源左衛門族江可申遣候事

同年七月

〔朱筆〕
〔十〕

小河三郎転役申付候趣意書付

小河三郎

兼々我意強、同列共用向談之節不落合義も俛有之趣相聞候、其上此度宿助人馬出入取扱候ハ、篤与相糺、治リ方第一可心掛處、松野尾治兵衛・宮部劍太郎申旨を而已相用ひ、人馬立方等之義不調ニ而、助郷方を非分ニ附ケ為致吟味、其外不都合之取計も有之候ニ付、出金差引人馬差支等有之段、如何敷相聞申候事

巳七月

〔朱筆〕
〔十一〕

松野尾治兵衛・宮部劍太郎歩横目とも申渡趣意

松野尾治兵衛

目付役之儀ハ、老共并同役之事たりとも、無用捨可致差上處、

近来隱密用向同役一統評議之上、用捨いたし申立候義も有之哉ニ相聞候、年久敷相勤候得者、右様之義ハ有之間敷處、不慮之事ニ候、其上此度宿助人馬出入ニ付、吟味不正之義取調候者、格別宿方之者共無証據申立之義、内々聞受不調ニ而、何角申出候ニ付、却而吟味妨ニ相成通行之節、人馬差支も有之、其外依怙之取計も有之趣相聞候ニ付、役儀差免寄合可申付候事

宮部劍太郎

一昨卯年宝泉寺講出来之節、領分ニ而も加入取計候様申付候處、聊之義ニ而も一切不致出来段再応申出候ニ付、郡方江申付候處、速ニ數口出来候、早竟沙汰之義を軽々敷相心得、下方へ一応之尋も不致、一巳之我意を張、用弁差支申出候儀与相聞、不埒之至ニ付、咎も可申付候得共、以用捨其俛差置候處、尚又此度宿方人馬出入者、役外之儀ニ付、如何様相成候とも不拘筈之処、勝手方ニ事寄せ、宿方不都合之申分を内々聞受、一巳ニ而何角申出候付、却而吟味妨ニ相成、其外不慮之取計も相聞候、下地心得方不宜故之義、不埒之至候、依之役儀差免、小普請入申付候事

歩横目

田辺吉左衛門

宮川佐右衛門

兼々問屋見廻り相勤候上者、宿助とも不正之義無之様及見分可申出処、此度宿助出入一件ニ付而ハ、宿方之者とも不都合之儀申立候を、不致糺も取用申出候ニ付、都而吟味妨ニ相成、其外

依怙之取計も相聞候、殊ニ吉左衛門義ハ、去子年議定為取替候
節茂相勤居、双方へ及利解候身分ニ而、此度宿方申立而已取用候
段、不都合之至ニ候、依之吉左衛門ハ右足輕、佐右衛門ハ組入
申付へき事

巳七月

〔朱筆〕
〔十二〕

宿助人馬出入裁許申遣候ニ付書付

巳七月

此度宿助人馬立方出入裁許之義申遣候、其地ニ而も是非々々早々
落着可為致与見込候哉、助郷方なと不伏^服之儀、無理ニ押付、請
証文印形取候由相聞候、たとひ右押付ニて落着候とも、其義者
不相用、此度申遣候裁許之通仕置候様、更ニ可申付候事

巳七月

〔朱筆〕
〔十三〕

諸社江初穂之義ニ付書付

巳七月

浜松ニ而諸社江備候初穂金壹分之處、近来式朱ニ減し、下方氣
受不宜由相聞候付、評義次第、前々之通壹分ツ、ニいたし候様
存候

巳七月

〔朱筆〕
〔十四〕

御別紙

別紙順立不相分候間、先便差越候規格通り、目六^録を相添、初
ニ綴、大抵紙数厚サニよりて一冊ツ、ニいたし、何年分何年
迄と相極メ、綴足候様可致候、あまり厚く候而者、かへつて
取極悪敷候、右等見計可然可致候事、此旨可申遣候

〔同年七月、御勝手方へ被成下〕 (朱筆)

〔朱筆〕
〔十五〕

笹本三郎心得方可申渡書付

笹本三郎

先年京都在勤中、勝手向取締之義ニ付、二本松一介趣意を以可
取計旨申上候付、同人心底之義、委細相論、嚴敷叱置候、此度
再役申付候ニ付而者、弥以相慎、右様心得違之義無之様、可相
勤候

巳七月

同年八月

〔朱筆〕
〔十六〕

巳八月

直書付写ニ而可触書付

先年富岡加兵衛、此断宇津木八郎義、坊主并仲間を殺害候、以後とも右様之義を武道と為し心得居候而者、不宜候間、別紙之通、此度両地家中江可申達与存候、何も存寄無之候ハ、直書付之写ニいたし、差出候様存候

巳八月

〔朱筆〕
〔十七〕 御別紙

先年富岡加兵衛坊主を致殺害、又候此断宇津木八郎仲間を打果し候段、両様とも其品者異候得とも、従来遺恨を狭候程之義も無之、必竟一時飲食会合之上ニ而仕出し候事ニ而、武道ニおひても其不本意之事ニ候、飲食会合等者、相互ニ勤仕之暇打寄格別ニ相和し、歎情を可尽事ニ而、却而鎖細^④之不快を酒力に依て相洩し、又者一時之過言・遊戯等より場所柄をも不弁、父兄之名を下し、主人之用を欠キ、只己か一分之存寄を遂げ、夫を士道之本意と心得候者、尤奇怪之事ニ候、古人も私ニ徇ひ公を忘れ、匹夫之勇を逞ふするを以て戒め候、凡士たる者ハ、義之有る所分立ハ死ハ塵芥も軽く、義之無き所分立ハ死ハ泰山よりも重く候、然るに、只死を軽するを以て、士と之時ハ群盜之類も死を見る事帰するか如くニ候、是等をも士と可申哉、各能々

士道の本意を詳にして、君父の為に其身を自愛いたし、大義に

預たる事ハ、幾重ニも可致堪忍事ニ候、夫も他所へ拘り候て、

若父を辱められ候哉、一巳たるとも武道に疵の付候程之義ハ可

有差別候、惣て怒を義理の上ニ用ひ度事ニ候、是等之義ハ、平

生武芸争鬪之上のみにあらず、文事に暗く、義理之分別無之故

ニ候、大ニしてハ文王・武王の怒を以て、天下の民を安んし、

小にしてハ敵子の怒を遷さるなど、古人言行を珍味^⑤いたし、朋

友所親之会合ニも、忠臣・義士の心掛を詮義いたし、変義に段

之候ても、狼狽いたさず様可有穿鑿候、父兄たる者も、子弟の

血氣の為に狂氣乱心の汚名を受さる様、常々篤与可申論候、只

強氣・短慮を為し武道と弁候者、心得違之事ニ候

巳八月

〔朱筆〕
〔十八〕 御別紙

右ヶ条順次ハ清書之節可改候

城代定草稿洩候義も有之間敷哉、浜松へも遣し存念可承候、其上本書可相渡候、夫迄之處、此稿之趣ニ而、末々可用ヶ条御直心得居、問合等尽し候ハ、差懸候節ハ、其趣可答候、一体之處ハ、当時伺中之旨可及挨拶候事

〔朱筆〕
〔十九〕

城代定稿

城代

一老共順席之事

一役名順之義を、在江戸之内老共上座有之候ハ、年寄城代与之順

ニ可立、老共上座無之節者、城代年寄を順ニ可立事

一政事向ハハ不拘事

一名代并通行出役等必定老共可勤兼、差支有之節、其時限り申達之

上、勤向可有之事

一家中之者ハ、公私共過勤ニ不及候事

一殿中席之義、大広間・二之間可在之事

一老共へ用談有之節ハ、大広間・二之間へ老共呼出し可申談候事

一在府中年頭并暑寒、機嫌伺等も同前、席ニ而老共謁可申事

一年始盃酌、玄猪年餅等之節、老共と順席ニ可進事

一年始・五節句・月並参賀、家老・年寄・用人、一列ニ相進候間、

其後、独礼可致候

一料理又ハ菓・酒等遣候節、老共順座之事

但、御鷹之鷹披ニハ、不及参殿事

一七月棚拜礼、老共順席之事

但、御送之節、老共向座ニ可有之事

一講談之節、不及参殿事

一奉射并火術等之節、見物勝手次第、出座候ハ、前以月番老へ可

案内候、見物所者、家老・年寄之次へ可仕構事

但、平常之文武稽古見分等ハ、不及出座候、何そ玆敷仕義

も候ハ、勝手次第可致出座候哉、以案内可有之事

右常体之城代、大抵如此可有之哉

一主意有之二本松義、廉之姿ニ而、城代申付候分ハ、別格之事

天保四巳年

八月

巳八月

〔朱筆〕
二十
領分絵図差越候様申遣候書付

一領分惣絵図

一城郭并住居向

一家中屋敷長屋

一城下市中共之絵図

一住居向計明細絵図

右、先年差越候分致焼失候間、此度受候而仕立可差越候、表紙色

紙・茶袋紙之類可然候、奥ニ上ヶ堅寸法、曲巻尺・横巾曲七寸位

ニ相成候様仕立可申、右寸法より、少々内法之方ニ而茂、不苦候

事

巳八月

一枚

一枚

一枚

〔朱筆〕
〔廿一〕

巳八月
歩士勤番人数不足ニ付、不及伺即出可申、
以後兼而可伺旨書付

歩士之者、此度勤番申付候者五人ニ而帰宅、交代之人数ニハ不足之由ニ候、早々不足之人数新規召出、勤番申付候様存候、人物不及伺、直今度可申付候、以後八年々交代人数夏中ニも相調、不足之分ハ早々召出申付へく候間、兼而相伺可申定人数ニ而、隔年勤番ニも可為難渋候、少々ハ余慶之人数有之候而も可然事と存候、此段今便申遣候様存候

巳八月

〔朱筆〕
〔廿一〕

巳八月
御国高調方之義ニ付、申遣候
書付

御国高調ニ付、先日以来郡奉行ニ而可調置候、右追々承合候處、他所ニ而ハ矢張是迄之儘ニ而調出し、此度別段委細之小物成等迄書出しハ無之由ニ相聞候、余り委敷相成、込高迄も認出候得者、逐而村替等之節、甚不益之義も可有之哉之由、右等勘弁いたし、此度可書出調帳下書とは是迄之振合ニ認候下書と、先一村之分ニ而も差越可申、一覽之上、外をも承り合否可申遣候間、此段郡奉行へ可達候事

巳八月

同年九月

〔朱筆〕
〔廿二〕

巳九月
宿方同意之歩横目とも、転役之義
伺候様申遣候書付

宿助出入落着一段之事ニ候、然處、未た歩横目之内ニ宿方同意之者居候間、兎角何かと手入いたし、此上間隙を見計ひ工事等可致哉ニも相聞候、右同意之歩横目とも致穿鑿、転役ニ而も申付候ハ、役承動候事故、宿意解可申哉与存候、評議之上、仁物配調所置可伺越候

巳九月

〔朱筆〕
〔廿四〕

巳九月
宿助出入、此上治り方評義之義
書付

宿助出入一件济口相成候處、兎角宿方ニ而者、此上巧事も有之様ニ相聞候、然上ハ、別紙申遣候歩横目とも之内、宿方同意之者取除候計ニ而可相济哉、其外何そ拘り合之者等ハ無之哉、此上治り方之取計方有之候ハ、致評義可申越事

巳九月

〔朱筆〕
〔廿五〕

巳九月
郡方支配之者、長々城下江出張居候義ニ付
相尋候書付

此度宿助郷人馬立方出入ニ付、舞坂宿問屋那須田又七城下へ来候節、郡奉行支配吟味方、問屋詰等四人日数本陣江出張、昼夜詰切居候由、昼夜不詰切とも、夜分時刻ニも相成候ハ、引取可然事与存候、如何之模様ニ候哉可相尋、以後右様出張等尽し候とも、夜分用洛次第引取候様可申付候、先此度之子細可書出候

一右昼夜詰切居候人用も加り可申、右ハ何れハ出金候哉、可申越事

巳九月

〔朱筆〕
〔廿六〕

巳九月
故富岡加兵衛・宇津木八郎腰物
之儀ニ付申遣候書付

故富岡加兵衛・宇津木八郎、刀・脇差とも、三好福馬例ニ而親類之者江相渡、欠所ニハ不相成由、左候ハ、其家ニ而も以後不相用候様可申付候、其事ニ不用立方ハ、相用候而も不苦候、万一貧窮等ニ而売払候様之義も尽し候ハ、前以申出、時宜ニ寄取計も可有之候、兼而其家江申付置候様存候

巳九月

〔朱筆〕
〔廿七〕

巳九月
城代規格案遣候書付

城代規格案、相渡候草稿ハ少々加候ケ条、并大意ハ不替候得とも、差略之ケ条も有之候事
右、清書、紙品大美濃紙ニ而も何ニ而も、あまり鹿紙ニ無之方ニ而、奉書之類者不宜候、誰ニ而も致執筆可差越候、奥書・年号等ハ、自筆ニ而認候間、定紙綴込可差越事

丑九月

〔朱筆〕
〔廿八〕

巳九月
小河三郎宅へ、兵学稽古ニ付多人数
集会候由ニ付書付

小河三郎宅江、兵学稽古として、家中之者多人数、逐々集会候由及承候、武門専要之義ニて美事とも可申候得共、極候師範と申ニも無之、屢多人数集会候而者、外見も如何敷候、以後小集ハ格別、多人数之義ハ致遠慮可然候、尤右学者之内、往々家中之師役も可勤程之人器も候ハ、其分一両輩を厚取立可申旨、小河三郎江無急度相通可然与存候

巳九月

同年十月

〔朱筆〕
〔廿九〕

巳十月
宿助出入之義ニ付、吟味方并問屋詰日数
本陣江差出候義ニ付、尚又申付候書付

宿助出入之儀ニ付、吟味方并問屋詰共、日数本陣江差出候儀ニ付相尋候処、志賀主稅書付差出候書面之趣ニ而も、昼夜不寢候而、及利解候儀とも不相見候、以後右様烈敷吟味等有之候とも、徹夜之節ハ格別、左も無之節ハ、何時ニ相成候とも、濟次第引取、又早朝ハ相越候様可致旨、郡奉行へ可達事

巳十月

〔朱筆〕
〔三十〕

巳十月
宿助人馬立方出入懸り之者、褒美
有無之義、評議候様申遣候書付

宿助郷人馬立方出入、此度致落着候ニ付、吟味方問屋詰等昨年永々骨折候義ニ候者、相応之褒美ニ而も可遣哉、奉行初江も褒美可遣哉、又者奉行并吟味方等利解中不致落着、此地ハ取極申付候事故、夫ニも不及哉、兎も角も、昨年来永々骨折候廉を以、致差略候方ニも可有之哉、何れ致評議可申越事

巳十月

〔朱筆〕
〔卅一〕

巳十月
大納戸ニ而悪穢之品不取扱段、
申出候義、可尋書付

大納戸奉行ハ武器取扱ニ付、悪穢之品不取扱旨度々申出候、右ハ、前々ハしかといたし候規格ニ而も有之候哉
一 從來有之候武器之類ニハ、血戰等ニ被用候品も可有之候得共、其分ハ大納戸ニハ不差置候哉
一 奉行初忌差免等ハ無之哉、若シ忌差免相勤候而も、役所之用向ハ不相勤哉、服中之者ハ、如何いたし候哉、同断手代とも迄之勤方、心得可有之哉

右之元極并忌中・服中勤方等相尋可申越候事

巳十月

〔朱筆〕
〔卅二〕

巳十月
步横目中島喜一六、宿方之者江直尋
之様子咄候儀ニ付、申遣候書付

步横目中島喜一六事、宿方之者江此表之尋などの様子申聞候義ハ、兼而内々申付候上、右様為咄候事ニ付、咎等之義ニ不及候事

巳十月

同年十二月

〔卅三〕御別紙

御国高調之義、大塚祐市答之趣三有之候へ者、無斟酌十分取調候方可然候、乍去新開場所之義ハ、模様ニ寄上地ニ相成候間、別紙絵図ニ見合、且入会場村方等ニ而者、是又同様ニ付、全一領限之村中之地所ニ而見分受候得者、上地ニも不相成候由、是等無手違候様差略可致候、猶求馬申談、委敷浜松江申遣候様可取計候

繪図も写出来次第、求馬可差出候間、浜松江遣候様存候

〔卅四〕

巳十二月
目付方取調事、條理無之義ニ付、
申遣候書付

近来浜松目付方取調事、大小内外之條理無之候、無益ニ用金等費候義与存候、文政十一子年七月、相渡置候穩密取調方差別之儀、書付之趣意相心得、常調候事与存候得共、右之趣意ニも振候調も相見候、目付共心得方一応相尋、若右子年申付候趣意致忘却候様之義ニ候ハ、以後毎月一通、銘々目を渡し、熟談候様いたし、厚相心得候様可申達事

巳十二月

目録

〔宋筆〕
○天保五甲午年四月

〔宋筆〕一 御分限帳之儀ニ付 御書付

〔宋筆〕同年五月

〔宋筆〕一 小普請之輩番入之儀ニ付 御書付

〔宋筆〕一 御書付類写表紙之儀ニ付 御書付

〔宋筆〕同年六月

〔宋筆〕一 岡部亀之進并白井茂兵衛方江、飯売女呼入候調之儀ニ付 御書付

〔宋筆〕書付

〔宋筆〕一 杉濟調書認方之儀ニ付 御書付

〔宋筆〕同年七月

〔宋筆〕一 文武之上ニ而者、士分無差別取計候儀ニ付 御書付

〔宋筆〕同年八月

〔宋筆〕一 御昇進ニ付、小普請之内ハ番入之儀ニ付 御書付

〔宋筆〕一 士輕七十・八十以上、慰勞方評儀之儀ニ付 御書付

〔宋筆〕一 公役金御勘定書付等差上候儀ニ付 御書付

〔宋筆〕同年九月

〔宋筆〕一 御歴世 御神主浜松 御鎮坐之儀ニ付 御書付

〔宋筆〕御勝手方江被成下

〔宋筆〕一 御勘定帳書法規則、三郎調之儀ニ付 御書付

〔宋筆〕同

〔宋筆〕一 御勘定帳江 御即之儀ニ付 御書付

〔宋筆〕同年十月

〔宋筆〕一 老共初メ忌 御免後遠慮有無之儀ニ付 御書付

〔十四〕^{〔朱筆〕}一 輕輩共文武一覽之儀ニ付 御書付

〔同年十一月〕

〔十五〕^{〔朱筆〕}一 御国高調延引之儀ニ付 御書付

〔十六〕^{〔朱筆〕}一 兩地書状文格改り候儀ニ付 御書付

〔十七〕^{〔朱筆〕}一 御目付方ニ而召捕物、當分見合之儀ニ付 御書付

〔十八〕^{〔朱筆〕}一 御宮絵図之儀ニ付 御書付

〔十九〕^{〔朱筆〕}一 御家老共、初メ役順認上候儀ニ付 御書付

〔二十〕^{〔朱筆〕}一 御目付役承り而博奕打候者召捕之儀ニ付 御書付

〔同年十二月〕

〔廿一〕^{〔朱筆〕}一 輕輩共御咎後役付、仮役・加番等申付候節之儀ニ付 御書付

書付

〔廿二〕^{〔朱筆〕}一 小普請田辺吉左衛門、吟味役手附加番為止候儀ニ付 御書付

書付

〔廿三〕^{〔朱筆〕}一 毎月十七日、御用向之獵事彈候儀ニ付 御書付

〔廿四〕^{〔朱筆〕}一 歩横目人撰年齢之儀ニ付 御書付

〔廿五〕^{〔朱筆〕}一 博奕吟味之儀改り候儀ニ付 御書付

〔〇〕^{〔朱筆〕}天保五年申午四月

〔一〕^{〔朱筆〕}分限帳引換候

一 格式有之者ハ、肩書か上之處か、何方へ成とも、何格与申事可

認入候而、以後可差出候様可申遣候

一 無役之者ハ、家督年月可認入候事

同年五月

午五月

小普請之輩番入之儀ニ付申遣候

書付

小普請之内情宜敷分、先年昇進之節番入申付、此度も同様相同、

尤之事ニ存候、一体小普請之義ハ、先年嚴敷省略ニ付、無勤之名

目ニ新規申付候事候、然處、他家ニ者家督減有之新知加増いたし、

一代ニ而高禄ニ到り候も有之候、当家ニ而者永禄之姿故、新知も猥

りニハ難差出、増減之融通無之候得者、勤巧之励も薄く、又普通

之進退ニ候得者、減知も無之与致安心、文武之心掛も薄く成行候

處、幸小普請之名目も出来候事故、先年相定候通、三代統者減知

与改革候義ニ付、縦ひ情宜敷とも、右ヶ条ニ不応分番入候事申付

候而ハ、永代人才取立候義も不致出来、且新知加増も不任心底事

ニ候得者、慶事之趣意而已ニ而番入者却而不可然候哉と存候、右之

趣意を以、今一応致評議可申越事

午五月

〔三〕^{〔朱筆〕}御別紙

仕置類書付表紙難見分候間、是迄之帳とも不殘遣候間、可然取

計候様可申遣候事

同年六月

〔宋筆〕
〔四〕

午六月
岡部亀之進并郡方組向井茂兵衛方へ
飯売女呼入候調之義申遣候書付

岡部亀之進宅江、飯売女呼入候由ニ付、濟新右衛門調書致一覽候
処、濟調ニハ亀之進ニも可有之と存し、新右衛門調ニもしかと亀
之進与治定之據ハ無之候、若党捨三郎往来同道、其前差引候得者
若党之所為にも可有之哉、是以調ニ而ハ、しかと不相分候、右様
はつといたし、しかと據も無之調を以不輕咎申付候者、不可然事
ニ候、弥咎可申付事ニ候者、亀之進ニ候哉、若党ニ候哉、しかとい
たし候據調出させ候之上、可伺候事
一志賀主税組向井茂兵衛方へ、飯売女止宿之濟調書、是ハ尚更さつ
といたし候調方ニ有之、是以前同様不輕咎申付候筋ニ候者、しか
といたし候許據調直させ候様可申付候、其上伺不申事

午六月

〔宋筆〕
〔五〕

午六月
杉濟調書認方之儀ニ付書付

一杉濟事、此度岡部亀之進宅江飯売女呼入候哉之調書、題名四郎三
郎様御屋敷与調有之内之ヶ条ニも同様認有之候、新右衛門調書
ニ者、四郎三郎殿与認有之、左候得者、目付一統之儀ニ者無之与相

見へ申候得共、老共殿付調候方相当之処、濟相役ニ而右様認候者

不都合之事ニ候、一ヶ所計ニ候者、書損とも可有之候得共、両所
与同様認候者、書損と者不相見、心得違居候事与存候、後々新役
之者同様心得候而者、如何敷候、其上御目付ハ規格相立候役ニ候
得者、尚更右様之義嚴重ニ無之而ハ、不孝兵之儀ニ有之候、以後
改候様申付可然候

午六月

同年七月

〔宋筆〕
〔六〕

午七月
文武之上ニ而ハ、士分無差別取計、出精
取立之者出来候様書付

弁書致一覽候処、輕輩共ハ別ニいたし、甲乙候一体、文武諸芸之
儀者格式丈与申極も無之、各精次第勝劣有之、士分ニ而茂芸道ニお
るてハ、輕輩ニも不及義有之候得者、自然ニ藩之励ニも相成候処、
従来右様輕重を分ヶ候事故、士分ハ右体ニ候而も、永代輕輩ニ劣
候事ハ無之、輕輩ハいか様出精秀逸之事ニ至り候而も、永代士分
ニ勝候儀不相成事与極候而ハ、何程世話有之候とも、上下出精不
致、且用立候程ニ秀候者も不致出精道理ニ候、依之以後諸芸とも
甲乙者不及申、其外褒美等之員数士輕之無差別取計候ハ、自然
輕輩とも茂於芸道、上ハ士分ニも不劣處分可相励、士分も輕輩ニ
不劣様ニと可心掛候、近来藩風惰弱ニ相成候も、早竟文武之才名

目計ニ而勵方無之故ニ候間、以後惡癖相改、右之通ニいたし、其上秀逸之芸術、ことニ文学出精一廉可用立者ハ、右文武之芸術を以、輕輩も士分ニ取立候様可致候、右之處、厚心掛取立之者出来候様可取計候事

同年八月

〔七〕^(朱筆)此度昇進ニ付、小普請之内ハ番入之義相同候付、起立趣意之義申遣候処、再応勸弁之義申越候間、先此度ハ、番入之義可申付候得共、名前書一覽候処、給人以下之名前も無之候、左候而ハ、人撰とも難申候間、小普請之内相応之者給人以下迄不殘相調、文学之義も相認、今一応可伺越旨可申遣候之事

午八月

〔八〕^(朱筆)

午八月

士輕七十・八十以上慰勞方評議之儀書付

輕輩八十以上勤差免候時ハ、給米其儘遣し候得共、七十以上之定無之候、以後士輕共七十以上・八十以上隱居之時、慰勞之いたし方致評議可申越候

午八月

〔九〕^(朱筆)

午八月

公役金勘定書付差越候様申付候書付

公役金勘定いたし候書付者、掛りハ老共ハ差出候事与存候、当年ハ右書付写ニいたし差越可申候

午八月

同年九月

〔十〕^(朱筆)

午九月

歷世神主浜松鎮座之義ニ付書付

歷世神主、是迄江戸鎮坐之處、火災繁之土地ニ而心配ニ付、此度浜松鎮坐ニ可改候、右ニ付、鎮坐之土地相撰ヒ可申事
一 靈神社・昭穆社・時祭社与都合三社出来、拜殿も三棟出来可申事
一 当時浜松ニ有之候 靈神宮者宮造ニ無之堂造ニ候、此度ハ本宮造ニ可改事

一 本社内廻り九尺四方、拜殿式間半ニ式間位ニ而も可然哉、恰奥ハ本社ニ可隨事
一 三社拜殿とも、一時ニ出来候而ハ、入用も掛り候事ニ付、先靈神宮計宍社拜殿とも改造、外ニ社者仮ニ神主納メ神供出来候迄ニいたし、拜殿も無之可然候、逐年都合次第可改造方与存候
一 右宮拜殿とも、平絵図・建絵図とも可差越候事

一土地相撰ひ并入用も取調可申事

但、逐を而八神庫取立、又八祭日假に供所も可立候間、土地猶

豫有之方、別を而可然候

一土地之義、城内に而火氣遠き方可然事

右評議之上可申越事

午九月

「御勝手方江被成下」(朱筆)

「十一」(朱筆)

勘定帳書法規則、三郎調出候様
申遣候書付

勘定帳之儀、近来再興之節、唐津時分之義不相分候に付、積書之振に而仕来候得共、一体当時之書面に而者取納米高も不相分候間、当午年に取納米高并渡方、其外正米入用之分者、米高を本文にいたし、脇へ代金に付いたし、渡方正米遣とも、代金付無之を而都合に候ハ、是又代積不勝様脇書にもいたし、其外米金とも仕分能様可有之候、三郎儀、右書法致勘考、唐津勘定帳之振合をも見合、以後之規則に相成候様取調可差出旨申達事

午九月

「同」(朱筆)

御別紙

「十二」(朱筆) 帳面朱印取違候間、押直し可申、綴印茂有之事故、浜松へ

遣し、右紙入直し後便差越候様可致哉、此表に而入替へ遣し綴印

浜松へ差遣候上、改印申越、何れとも可然可取計候

同年十月

「十三」(朱筆)

老共初忌差免後、遠慮有無之事書付

午十月

老共用人共、忌差免出勤後、年始・配酌・玄猪等、是迄遠慮いたし候哉に候得共、忌差免勤之上者、以後不及遠慮候、寺社江名代并廟所年拜等ハ可致遠慮候事

一諸士も右同前之事

午十月

「十四」(朱筆)

輕輩共文武一覽之儀に付、申遣候書付

午十月

此度武芸一覽帳に、輕輩とも名前も相見、一段之事に候、乍去淺山一伝流帳面之趣に而者、輕輩同士之業与相見江可相成ハ、打太刀并請太刀并業口茂、一方ハ士分之内相對候程之業之者をも加へさせ候ハ、別を而助に相成可然候、槍術之義、一体輕輩に槍ハ不聽候間、不及助、乍去是以自分之嗜に而稽古候分ハ盤、士分一覽相

濟候後、出し可為遣候、是又請并突身等へ盤、士分受セ為致候而不苦候、輕輩・同士三者、一体之芸術切拙不相分候間、右之心得二面可取計候

一 文学之帳三者、輕輩名前不相見様ニ存候、是又嗜候者ハ、以後差出候様不致候

右族相心得無差支候ハ、藩中文武之励ニ相成候様可取計候事

午十月

同年十一月

〔朱筆〕
〔十五〕御国高調、追々出揃、残り之分名前調有之候處、五・六人

ニ相成調席申候旨、書面御勝手方廻しニ而、一覽いたし候、右之内ニハ忠邦名前も有之候間、早々相調、年内納出来候様、別便ニ申遣候方可然存候

廿一日

〔朱筆〕
〔十六〕
兩地書状文格改候義ニ付書付

午十一月

兩地每便往復ひらく之文言中

差遣候

又ハ

遣之候

右、先文ニ可有之候得共、当役所司代等江往復之互之文格ニ見合候得者

進候

又ハ

進之候

如此以後兩地とも、文格改候様存候事

午十一月

〔朱筆〕
〔十七〕

午十一月

目付方ニ而召捕物、当分見合候様申付候書付

歩横目共廻り先ニ而召捕物之義、別紙相尋候、右ニ付而者存寄も有之候間、追而沙汰いたし候迄、目付方ニ而召捕物者見合せ可申、博奕等度々相催難捨置分、或不輕科人等有之節ハ、郡方ニ而召捕候様可申付候事

午十一月

御別紙

〔朱筆〕
〔十八〕御宮絵図致一覽候處、拜殿ハ矢張宮造にいたし、四方上ケ、

蔀前後、妻戸廻り縁高欄附、前後階附之積り認直可差越事

一 宮拜殿とも、天井ハ無之、屋根裏之事ニ候

一 屋根裏絵図茂可差越事

一 当地之宮地ハ、一体住居近く、時宜ニより建物も可取立處与存候間、此度別場所江転し候様存候、一向違り候場所取調可申越事
右、可申遣候

御別紙

〔十九〕^{〔朱筆〕} 家老初メ士分諸役番方徒士等迄之役順、并輕輩とも分も同様相定候義有之候ハ、可認越候、燒失以前差越候得共、当時手元ニ無之候間、右之段浜松へ可申遣候

御別紙

〔二十〕^{〔朱筆〕} 目付役承り而博奕打候者、其外とも見当次第召捕候様相違候儀有之候哉、右達無之候ハ、目付方之心得方古格を例等可申越事、右浜松へ可申遣候

同年十二月

〔廿一〕^{〔朱筆〕}
午十二月
輕輩共咎後役付、仮役・加番等申付候節
之儀書付

輕輩共咎申付候後、年月相立、諸向役付、又ハ仮役・加番等ニ取候時、其支配役向合右之者、去ル年月日、何之咎有之処、此度ケ様之勤功、或ハケ様之儀ニ付、役付又ハ仮役・加番等ニ取申度旨為書出、右書面を以相伺可申候

午十二月

〔廿二〕^{〔朱筆〕}
午十二月
小普請田辺吉左衛門義、吟味役手附
加番為止候様申付候書付

小普請田辺吉左衛門義、昨年宿助出入取扱方不宜、不埒之存念相聞候ニ付、歩横目差免、小普請入申付候者之處、去月九日吟味役手附加番申付候由、早々為止候様可申付候
午十二月

〔廿三〕^{〔朱筆〕}
午十二月
毎月十七日、用向之獵事彈候義
申遣候書付

毎月十七日家中之者とも、自分之獵事者不苦候、上之用向ニ而之獵事ハ可為彈候事
午十二月

〔廿四〕^{〔朱筆〕}
午十二月
歩横目人撰年齢之儀書付

歩横目共勤方之義ハ、常々政事之可否并家中・領中人之善悪、其外万事取調申出候義、基本ニ相成、政事向斟酌いたし候事ニ而、

不輕動向^二有之候、然處、近来歩横目^一江者、兎角年若之者多く撰
 挙候様子、諸向心得第一主役之目付共同様之心得与相見如何敷事
^二候、一体年若之者^一而も文才・氣量等有之者格別、普通之仁物
^二てハ、老年も年重之者自然勤弁も除候間、同年取調候とても心
 得方も不淺義^二付、此意味合目付共^一而も心得違無之、以後歩横
 目^二者四十歳以上之者を撰候様可致事

午十二月

〔朱筆〕
〔廿五〕

午十二月

博奕吟味之儀改書付

博奕打領内為止候積^二而、先年^一不絶召捕有之候得共、一向不相
 止候、公儀^二而も、大博奕之外ハ吟味も無之、見逃^二相成申候、
 領内狭少^二而も、此義計ハ迎も不相止義^一有之、平生之教諭等行
 届候得者、自然人心も堅固^二相成、万事相慎候事^一而も召捕等ハ、
 全枝葉之儀、殊^二人民之痛^一も相成、旁以一体不好事候、依之以
 後、左之通、大凡見当相定可申候事

一大博奕度々相催候類ハ、召捕可致吟味事

一聊之博奕ハ、大体見逃至可申事

一聊ツ、之博奕^二而も、不絶相催定宿之様^一相成、町内・村内^二而も、

専ら風説申触候様^二相成候ハ、召捕可致吟味候

但、成丈所役人江内意申聞、不束之儀相聞候間、早々取締付
 候様申付、其上^二も不相止候^一ハ、可召捕候

一領内城下ハ宿場^二而、人足も留置候場所故、右之處^一而ハ、博奕
 不絶可有之候、是ハ辻博奕同様之義候得者、見逃至可申事

一都而博奕打召捕可申とも、前以風聞等能々相糺、無相違候ハ、
 老共評議之上可手掛品^二江戸江も同越可申候

一博奕打召捕候とも、人違等無之、入念調可申候事、是迄之通、猥
 之儀無之様堅可申付事

一目付方^二而ハ召捕之義不致候^一而、風聞のみ能々相糺、伺之上可相
 捕、其風聞書を郡奉行へ相下ケ、同奉行^二而可為召捕候事

但、風聞糺とても、前件^二有之通、其所^一而も専申触候様^二相
 成候而、後風聞等操人名等迄委細可調候、是迄之通、猥穿鑿

之義ハ有之間敷候

右之外、追々可申付候得共、先当時^一此趣^二相心得可申旨、目付
 共郡奉行へも申渡至可申事

午十二月

目錄

〔○天保六未年正月〕（朱筆）

〔朱筆〕一御目付方江召捕者致間鋪儀^二付 御書付

〔朱筆〕一同年六月〕（朱筆）

〔朱筆〕一井上狩野介差扣伺慎中、親類江罷越、酒食之儀^二付 御書

付

〔三〕〔朱筆〕一他国江御用向ニ而罷越、帰着御褒美之義ニ付 御書付

〔四〕〔朱筆〕一井上狩野介江達之儀ニ付 御書付

〔五〕〔朱筆〕一同年七月御勝手方ニ付

〔五〕〔朱筆〕一御用達若森善右衛門、天王村孫左衛門苗字帯刀之義ニ付

御書付

〔六〕〔朱筆〕一同年閏七月ニ付

〔六〕〔朱筆〕一一向宗唱方之儀ニ付 御書付

〔七〕〔朱筆〕一同年八月ニ付

〔七〕〔朱筆〕一父不恙ニ而退役、又ハ隠居等いたし候者、悴転役之儀ニ付

御書付

〔八〕〔朱筆〕一同年九月ニ付

〔八〕〔朱筆〕一永楽銭紋付軽輩共着用差留之儀ニ付 御書付

〔九〕〔朱筆〕一同年十二月ニ付

〔九〕〔朱筆〕一浜松御小納戸御茶道・大納戸方風入之節、老共見分之義ニ付

御書付

〔十〕〔朱筆〕一御家老幼年、御城代等忌御免之儀ニ付 御書付

〔一〇〕〔朱筆〕一 天保六未年正月

〔朱筆〕未正月 目付方ニ而召捕者致間敷旨書付

未正月

役歩横目共博奕打候者召捕起立之儀、目付共ハ相尋候處、此度書出候趣ニ而考、一向元極茂無之旨ニ而、其上近頃者猥ニ相成、殊ニ捕違、他領者ナと繩掛取扱差支候儀等も有之、旁以先達而相逢候通、以後召捕者之儀、目付方ニ而考不致義と相心得可申候、尤、別段之趣意有之、臨期召捕相逢候時ハ別格と可相心得候事

但、目付共書付ハ可留置候

未正月

〔朱筆〕同年六月

〔二一〕〔朱筆〕一井上狩野介、此度小納戸紛失物ニ付、差扣伺慎中、親類方

江罷越、度々酒食等いたし候由相聞候、為取調候様浜松江

可申遣候

〔朱筆〕未六月 他国江御用向ニ而罷越帰省褒美之儀書付

未六月

大坂金談等之用向ニ而罷越帰省之上者、毎度褒美遣候儀有之候得共、其外遠国用向ニ而、態々相越候とも、帰省之上褒美等遣候儀

無之候、以後ハ常体之義ニ而も見分事、其外用向ニ而他国へ罷越
掃省候上ハ、士軽とも相応之褒美遣候様可致候、其節ニ致評儀可
相伺候事

但、勤番婦ハ不及本文之義候事

未六月

御別紙

〔四〕^{〔朱筆〕}一井上狩野介事、今度隠居茂願候由申聞候、右ニ付、差扣申

付候義ハ見合、左之通可申達

先日差扣伺中私之出会等いたし、勤柄別而不恙之事ニ付、

咎茂可申付處、今度隠居相願候ニ付、別段不及沙汰、此

段可心得候

右同役江可申達、表向申渡ニハ不及候、目付ノニ而も可達、或

浜松之振合ニ可取計旨可申遣候

同

井上狩野介義、隠居願と今期相認候処、退役をも相願候由ニ付、

其趣可申遣

〔五〕^{〔朱筆〕}
未七月
用達善右衛門・孫左衛門、苗字帯刀之儀ニ付、
以後之義書付

用達若森善右衛門・天王村孫左衛門、一昨年宿助一件吟味ニ付、

腰押等いたし、不埒之筋相聞候付、用達取放候処、昨年勝手不操
合之由申立、再用達ハ申付候、然處、此度椒兵左衛門口振ニ而ハ、
苗字帯刀等如元相成候得者、別而勤勝手操廻可申旨相聞候、^{以下、傍点は朱也}
百姓・町人江猥ニ苗字帯刀差免申間敷旨、公儀ハ被仰出有之
公儀ニ而茂別段上納金又ハ村方為ニ多分之金銀差出、又ハ
儀普請・村普請等之場所引受、子孫迄多分之入用相掛可申、其
外目ニ立候、功分相立候上、其身一代苗字、次ニ帯刀、次ニ孫代
迄苗字、次ニ悴迄ニ帯刀等被差免候、悴・孫迄も後々ハ永代之功
分之品無之而ハ不相成程之儀ニ有之候、然處、浜松表ニ而ハ近来
為差功分無之者ニ而も、先苗字・帯刀等差免、其上是と申勤之品
も不相見者多分有之候、何も功分相立候儀、賞之品ニ有之処、前
後之取計ニ相成、不都合之事ニ候、其上右善右衛門・孫左衛門杯
ハ、宿助一件ニ付咎申付候者候得者、上ハ一体之儀候処、勝手之
用向ニとかこつけ候得者、何事も相濟候様ニ心得、終再役、又者
苗字・帯刀等之義申立候ハ、無功分賞候而、却而上を輕候取計
ニ有之候、吟味役等ハ、何事茂不心付、右様申出候と茂、老共之
場合政事向拘り候者故、差引可有之事ニ存候、一昨年宿助一件ニ
拘り咎受候者、其外不平之輩ノ無事之者を落し可申候、心底有之
已ニ歩横目なとも外事ニ而、過日退役申立候様之儀有之ハ、善右
衛門・孫左衛門なとも同腹之者ノ引立候事ニ相聞候、無摺宿助一
件再発可致含とも相聞候、下ノ右様上を計候者甚不宜事ニ候得共、
老共政事ハ内外一体之事故、政体条理相立候様心得可有之存候、

以後とも上を計、外事ニ寄せ、政事妨可申存念之者有之候ハ、急度相糺厳重取計有之様存候、老共ニ者、右場合相心得目付吟味役なども、政事一体之基本之老共トハ、隔遠之儀不紛候様いたし度存候事

未七月

同年閏七月

〔朱筆〕六

一向宗唱方之儀書付

未閏七月

大道寺源内伯母真宗東本願寺末中泉西願寺江養女ニ差遣申度段、願之通申渡候書付差越候、右宗旨私ニハ浄土真宗と唱候得共、以後者表向之通、一向宗と可唱候願書等江茂、其通ニ可為認候事

但、此義先年申遣置候義有之様存候

未閏七月

同年八月

〔朱筆〕七

未八月
父不恙ニ而退役、又ハ隠居等いたし候者、悴
転役之儀書付

今度吟味役三郎代井上十兵衛義相伺候父狩野介義、不出来ニ而退役・隠居ニも相成候處、直悴転進等ハ不可然筋合ニ候、以後とも

右之心得ニ而可伺候

未八月

同年九月

〔朱筆〕八

未九月
永楽銭紋付輕輩共着用差留候儀ニ付
申遣候書付

永楽銭紋付輕輩共着用差留候由、縁有之分并彈正杯ノ貫候向ハ如何致哉、右様之類ハ申出候様申達候方可然候、猶評議之趣可申越事

未九月

同年十二月

〔朱筆〕九

未十二月
浜松小納戸茶道・大納戸方、風入之節老共
見分之儀申遣候書付

浜松小納戸茶道預道具書物類、年々風入有之候處、以後者年々老共見分可致候、尤、同品為手入ニ・三日茂干候事可有之、其節者何れニも一日見分可致候
一同大納戸方風入之節、三ヶ年ニ一度つゝ、老共見分候様可致候
右、見分之節、手入等心付候儀ハ、夫々可申付候事

未十二月

〔十〕^{〔朱筆〕} 未十二月
 家老幼年中、城代等忌差免之儀相定候
 書付

一家老共幼年中忌并遠慮等之節、尋問ハ定例之通有之、忌遠慮差免之儀ハ無之事

一城代茂忌遠慮、産穢等之節同前之事

右之通、以後相定置可申事

未十二月

目録

〔一〇〕天保七甲年正月御勝手方^{〔朱筆〕}

〔一一〕一諸役御勘定帳当番所へ可納置義ニ付 御書付

〔一二〕一同年二月御勝手方^{〔朱筆〕}

〔一三〕一御小納戸へ納候冥加等、以後周急金へ可納義ニ付 御書付

〔一四〕一同年三月御勝手方^{〔朱筆〕}

〔一五〕一浜松御納戸御小遣金、同御貸付金等之訳合、御小納戸へ可

達儀ニ付 御書付

〔一六〕一同年四月^{〔朱筆〕}

〔一七〕一老者御恩賜御定之儀ニ付 御書付

〔一八〕一浜松取計向之儀ニ付 御書付

〔一九〕一潰門取立調掛り之儀ニ付 御書付

〔二〇〕一近江吟味役勤番之儀ニ付 御書付

〔二一〕一同年五月御勝手方^{〔朱筆〕}

〔二二〕一近江吟味役勤番評義之儀ニ付 御書付

〔二三〕一 大坂十家取扱心得之儀ニ付 御書付

〔二四〕一同年七月^{〔朱筆〕}

〔二五〕一出水御届・其外御届向早メ可差上儀ニ付 御書付

〔二六〕一同年七月御勝手方^{〔朱筆〕}

〔二七〕一他所酒買入停止之儀、評議承付之儀ニ付 御書付

〔二八〕一同年九月御勝手方^{〔朱筆〕}

〔二九〕一在町風烈ニ而潰家・半潰等相成候者へ、御手当伺之儀ニ付

御書付

〔三〇〕一御家中風破御手入之儀ニ付 御書付

〔三一〕一同年十月^{〔朱筆〕}

〔三二〕一村々騒立候時、御人数并心得方之儀ニ付 御書付

〔三三〕一御領中へ無宿者不立入候様可申付儀ニ付 御書付

〔三四〕一 村々騒立候儀御聞込之處、被 仰下儀ニ付 御書付

〔三五〕一 小普請之輩、御撰拳年限御定之儀ニ付 御書付

〔三六〕一 一步横目共、支配改革之儀ニ付 御書付

〔三七〕一 一步横目共、支配改革心得之儀ニ付 御書付

〔三八〕一 御仕置御下知書清書帳之儀ニ付 御書付

〔三九〕一 同年十月御勝手方^{〔朱筆〕}

〔四〇〕一 早稻・中稻蒔上居引之儀ニ付 御書付

「天保七甲年正月御勝手方江被成下」(朱筆)

申正月
諸役勘定帳差出候ハ、当番所へ可納置旨
書付

一作事役所金勘定帳

一焼物方勘定帳

右以後共、年々為差出、此地一覽相濟候ハ、浜松当番所へ可納
置候事

申正月

「同年二月御勝手方江被成下」(朱筆)

申二月
小納戸金江納候冥加等、以後周急金江
可納儀書付

浜松小納戸金取立候付、冥加金等臨時運上等之金子、其外共小納
戸江渡候仕来ニ候得共、近来ハ小納戸金茂相応之高ニ相成、右少々
宛之金子不相加候而も可相濟哉と存候、郡方周急金之方、高小之
方薄候間、右小納戸へ相納候分無差支候ハ、以後周急金之方江
相加へ候様、夫々江可申達事

申二月

「同年三月御勝手方へ被成下」(朱筆)

申三月
浜松小納戸小遣金、同貸付金等之訳合、
小納戸へ可達書付

浜松ニ而近年小納戸へ相渡候諸運上等之金、以後郡方へ相渡候義
申達候ニ付、同所小納戸ハ差出候書付致一覽候

一 小遣金五十兩宛之義、従来浜松小納戸小遣金と申ハ、定府後無之
候而人用之時々表分請取相払来候處、不極ニ有之、且其比ハ小納
戸金當時鳥見方
貸附金之内ハ、年々権門用として、江戸小納戸へ五拾兩ツ
、相廻申候処、右送金相止、五十兩を浜松小納戸小遣之方へ相渡
候義ニ相成候

一 小遣払方之儀、巳年午年之比ハ、江戸ハ致送金可然分をも勘定ニ
相立、追而送金を、翌年之元ニ立候義も有之、又者浜松ニ而都合い
たし、送金不相成分も有之、全く浜松小納戸引受、外之分迄勘定
ニ立居候間、多分之入用ニ相成候付、一昨年来段々申遣江戸表入
用ニ相成候分ハ、江戸ハ送金ニいたし候間、勘定不相加、尤送金
迄ハ吟味役等ハ借用立替置候様申付、浜松小納戸勘定帳ヶ条、何
ニと申義しかと相極候間、昨年ハ余程減少いたし居候、此度差出
候書面之書抜ハ、右江戸表分送金之立替金追加へ、小納戸取扱
ニ而払立候分、不残進メ候高と相見へ申候間、前件規定いたし候
箇条之通進勘定ニ相立、送金立替相除候得者、五十兩内ニ而払方
十分相濟候事

一納戸金江納候臨時運上等之分ハ、小納戸小遣候納訳ニ而無之、納戸金貸付之方江加ヘ候規定ニ有之、從來表之金子有之候

一納戸金貸付之儀、是ハ前件臨時運上等、段々相集メ候處、全く別

段之金故、家中ヘ貸付、利倍いたし候得者、上下都合能候間、其

取計ニ相成、幸小納戸共用少閑順ニ付、為取扱候義ニ而、名目を

小納戸貸付と唱候得共、元ハ表之金ニ而、手元ヘ可遣筋之金ニ無

之候共、権門用ニ出方無之候ゆヘ、右貸付利分之内ハ送金候処、

此分相止候間、小納戸渡之方ヘ振替ニ相成候迄ニ而、此余小納戸

ヘ引上可遣筋ニ無之候

一文武賞金之儀、是ハ一体表入用候得共、必迫之時節、其時々目六

等遣し候義も不行届、自然一同励も薄相成候付、小納戸貸付利分

之内ニ而出し、文武入用ハ不差支候様ニとの趣意ニ有之、是又表

用之儀、小納戸小遣払ニ可致筋ニ無之候

右之通ニ候処、小納戸近來度々相転、新役相成候間、元之訳合不

相心得紛乱いたし候事迄相見ヘ、小納戸小遣金者、当時鳥見方貸

付利分之内ハ年々五十兩ツ、相渡候迄ニ而無訳、別段相渡ニ不及

候、五十兩ニ而不足之節ハ、江戸ハ足金いたし候間、表ヘ申立間

敷候、全く浜松限之用ニ而、江戸ハ送金候筋ニも無之と申程之儀

ニ候得者、此表ヘも小納戸ハ伺越、表ヘ申立候義も可有之、臨期

取計可申、平年ニ候得ハ、此義者無之事と存候、右之訳ニ付、諸

運上ハ何方江相渡候とも、小納戸ハ差支可申筋無之候間、以後周

急金ヘ相加候様可致候、文武賞金之儀、元來表入用を、当分鳥見

方貸付ハ出有之儀ニ而、小納戸ヘ可引受筋無之候間、是迄之通可
取計候、此旨浜松小納戸江可申達事

申三月

同年四月

申四月

〔朱筆〕

老者恩賜定

士輕共七十歳以上迄相勤候者、退役・退番等之節、是迄恩賜之儀
無之候得共、老年迄相勤候者格別稀之儀ニ付、以後左之通相定候
事

家老

紋服一重紋付一
下着

羽織一

銀十枚

年寄

紋服一重同上

羽織一

銀七枚

用人

紋服一重同上

銀五枚

紋服一
銀三枚

紋服一
銀式枚

錦五把但一抱式拾目ツ、
金三百足

錦三把但同上
銀三十拾目

物奉行
近習
者頭

錦三把但同上
銀式拾目

足輕以下
旗組迄

歩頭
給人

錦三把但同上
銀拾五目

一七十歳以上退役・退番願之節、病氣ハ不申立、老衰之旨を以可相願候事

一輕輩と茂八十歳以上三而樂人申付、宛給其俣遣候儀ハ、是迄之通可取計候、其節前件之恩賜も可遣事

一恩賜之儀ハ士輕共勤仕之分計二而、寄合小普請古足輕等ハ、七十歳以上隱居樂人相願候とも、恩賜無之事

但、輕輩と八十歳三相成候得者、古足輕二而茂宛給其俣遣候儀ハ、仕来之通り可取計事

申四月

茶道分
料理人頭
坊主組頭
同格迄

御別紙

覚

歩横目分
同格
小役人格迄

一城下并領中江他所者人込、商売之事
〔五〕(朱筆) 城下繁美之方、金錢之融通宜鋪由之訊も有之候得共、他所分入込商売いたし候者、領中之金錢杯迄候之訊二付、金錢者扨底相成、且角力・芝居、其外之儀、土地之者見習候得者、自

然奢侈之風俗ニも相成、質素・儉約之儀不好様ニ成行、金銭遣方口取人情輕薄ニ流行候間、領中へ他所者入込、商売之儀不宜由相聞候事

但、近隣他領之角力・芝居等へ相越候様ニ相成候後ハ、領中ノ金銭持出候訳ニ付、都而不宜訳も有之候得共、是ハ不_レ斷之儀ニも無之、殊ニ其人而已之宜ニ而、領中之風俗ニ拘り候義ニハ不致候間、此論ニ不及、何れ領中江ハ他之商売不入方宜鋪由之事

一 酒屋とも他所酒買入之儀、追々可相止之事

酒屋共、是迄他所酒仕入致売買候得共、当時手製酒造茂有之候間、成丈手前之品ニ而便候様有之度候、是茂前件同様他所酒仕入ニハ、則他所へ金銭散候義ニ付、領中之衰微ニ相成候間、以後手酒造并領中酒造之分ニ而相便候様致度候、尤、是迄他所仕入仕来候処、一時ニ相止候而ハ、仕入金滞等も多分可有之候間、其分不残上ニ而引受払遣候と申儀ニも致間鋪候、依之先城下酒屋共之内、一兩人相極手酒造之払入用丈為引受、其者とも是迄他所仕入ニ滞等有之哉、前借ニ而も有之候ハ、其外不残上江引受払遣候者無差支義と存候、右之仕方ニ而年々ニ一兩人充他所仕込為相止候者、自然他所へ茂散財無之、且手酒造捌方も相進可申候、勘弁之上取計可有之事

一 銀札不好事

銀札之儀、一時ハ都合ニも相成候得共、漸々領中之金銭之相

成候訳ニ付、不_レ可然候、且此度之趣意ハ凶年之手当之儀ニ候得者、別而不慮ニ備候為に、領中之害を為候も不_レ相当之事ニ候、過日調練金差出候分一覽候處、此末とても右金手堅相備候訳、下方ニ而見及候ハ、自然出金いたし候者も可出来、其内ニハ利倍も相成、并以追年備向可相調義ニ付、銀札を以一旦ニ増高致すニも不及義と存候、篤と勘弁之上銀札之方ハ、先見合候方可然候事

但、銀札取計之義ハ、何方ニ而も 公儀江願之上ニ無之而ハ不相成事ニ候間、此義兼而心得可有之事

一 大坂銀主十家之事

住友・鴻池・米平・其外共十家之儀、先來家付と申ニハ無之、大坂御城代勤役中、町奉行與力相頼困口いたし、夫合用弁候事ニハ相成候得共、下地御役威を以申付候者ともニ付、踏込方薄く有之處、住友段々骨折ニ而、鴻池・米平ハ格別之引付いたし、十家之内追々相省為筋相成候者計残し、天災等之備可致候、鴻池一軒ニ而茂引受候ニハ、余り候程之義之旨、兼々住友申居候、只此上は十家氣請不損、年數積候得者、自然家付同様ニ相成候ニ付、其儀專一之旨住友茂申聞、格別懇切之者ニ付、其意ニ任セ候方、往々為筋ニ候間、右十家之方ハ、以後とも聊違約無之様、江州勿論浜松江戸ニ而も相心得、此上懇切相増候様可致事

一 凶年之手当として困殺申付候ニ付、手元ノ下金いたし候事

凶作之手当として困殺いたし候^二付、昨年冬、金百兩手元^一の相下候處、時節高直^二付、当年^三相成雜穀買入可^一困旨相伺、其通申付候、当年も百金手元^一の相下候^二付、時節宜鋪節、雜穀都合百兩分買入^一困置候之様可^一致候、右^一困之儀、先達^二而申付候通、村々庄屋元へ致配当、為^一困候様存候、別段村々^二而入置場補理候者、唐津大庄屋元^一有^二之義倉藏程之造作^三而、手輕^三出来候方可^一然候、其趣^二もいたし候儀候^一ハ、入用之儀^二ハ式百金之外^三而相渡候間、取調可^一窺越事

但、以後年々百兩ツ、手元^一の下金いたし、困増可^一申付候含^二付、兼^一而其心得可^一罷仕事

一 鉄砲洲屋鋪米倉、今一棟新建申付候^二付、当秋材木伐出来、酉春建候事

鉄砲洲屋鋪米藏、昨年一棟浜松^二而切組相廻し、此節建申候手元^三而も、別段一棟申付、当秋相建申候^一廻、今一棟不足^二付、来春相建候様可^一仕候、是^一ハ浜松江申付候^二付、当秋冬^一江掛材木伐出来からし候^二而、来春切組、五・六月中^二江江相廻り、八月初旬^一建初^一候様、都合可^一申付候、都^二而如斯致大工も相越、建方可^一致候入用出方之儀、一体^一ハ表^一払之品^二候得共差支候者、手元^三而取計^二而茂不苦候、猶其節評儀之上可^一申越候、其外之義前件之通可^一申付事

一 掛塚湊^一運送之品、毎度相滞候^二付、東受之方船付之場所も有^一之哉、内々^一為見分可^一申事

掛塚湊^一南向^二付、江戸江直乘込難相成候^二付、風待之日合多、出船も遅く相成、其上志州・鳥羽^一の渡海之節、度々破船も有^一之、甚不都合之場所江有^一之候、相良・川崎等之湊江遠州^二而も東向故、一風^三而直浦賀江乘込候間、一切破船も無^一之、往来^一茂度々有^一之、便利之由^二付、両湊之内^一江少々^二而茂村替いたし、五百石哉千石之飛地も有^一之候者、江戸遣之品^二も多分運送^三而事足可^一申由、乍去^一両湊^一各望候場所^二付、容易^二ハ村替等六ヶ敷候由、湊と申^三無^一之東向之海岸^三、其村方限之船付^一ハ、處々有^一之候由、夫^二而も事足候^一ハ、同事^二付却^一而何と存候、其村方望候^一ハ、飛地^一茂出来可^一申哉^二相聞候處、何村之船場有^一之哉不相分候、歩横目等功者之者へ申付、内々東向海岸之村々^三、其處限船附有^一之、浦賀往来等之儀、見来候様致度候、篤と申付書付出させ^一差越候様存候

一 追放刑并追出、久離、又ハ出奔者、帳外等申付候^二而ハ、領中人別相減、不好事^二付、右等相止、外々致方可^一有^一之致評義可^一申越事
但、郡奉行へ先達^二而申付置候得共、未た不申出候、早々評義いたし否可^一申越事

一 百姓とも困究之分、年貢未進等取立之儀、村役人江任置候得者、持高^一為売払後^二ハ家屋敷も売払候^一而、今日之立行も難相成、潰門^二相成候義不好事^三候、是以何とか仕法も付可^一申評儀いたし可^一申越事
本文之仕法外^二も可有^一之候得共、少し宛八年貢不足候とも加

勘弁、第一潰門不致出来候様ニとの趣意を相立、評義いたし
候様存候

右ヶ条之事とも不差置、追々可申越事
申四月

御別紙

〔六〕^{〔朱筆〕}昨日一紙申付候潰門取立等之儀、早々相調候様致度候、常ニ
相成候得者、勝手方掛りと申ニも無之筋ニ付、族江引受申付、同
人專取調伺越候様可談候、忠邦存意之儀ハ可及演説候事

同

〔七〕^{〔朱筆〕}一大津吟味役勤番ニも可致哉之旨、先日申聞候得共、其節ニ者
申候通、大坂專引受居候事故、可計定新規相成候而ハ、銀
主氣受も不宜事故、不可然、其上来不手馴ニ而ハ取計、
不都合之儀も有之、今一人引越をも申付、平生為見習申度
程之儀ニ付、旁以勤番之儀ハ相見合可申候事

申四月

〔同年五月〕^{〔朱筆〕}

御別紙

〔八〕^{〔朱筆〕}近江吟味役勤番之儀申聞候、一通りハ其理茂有之候得共、大
坂金主等之氣受ハ不宜様ニ相成候、左候時者、何之事有之節之談

ニも差支候、金主方ハ、兎角懇意之者宜鋪由ニ而、已ニ半内ニ茂不
案内ニ付、大坂之儀取計致方無之旨申聞候得者、今一応可為評義
候

同

〔九〕^{〔朱筆〕}別紙十家江拘り候条者、先手付不申様可致候、住友初扶持方
之箇条茂、近来右之通相成候處、又者減候而は不穩、矢張氣受ニ
も拘り候、殊ニ百兩計之義ニ候得者、是以居置候様可致候、右相
含可取計候

同年七月

申七月

〔十〕^{〔朱筆〕}

出水届・其外届向早々差越候様書付

出水届、且水旱ニ付損毛届等、昨年茂遅々差越、此地ニ而取調持出
相成候迄茂、甚不都合之事ニ付、以来手早ニ取調可差越候、損毛届
之義ハ、十一月中ニも此表へ差越候様可取計候、右之外届類之儀ハ、
都而不遲滞様可致事

申七月

〔同年七月御勝手方へ被成下〕^{〔朱筆〕}

〔朱筆〕
〔十一〕
申七月
他所酒買入停止之儀評儀ニ付、承付申付候様遣候書付

他所酒買入相止させ候儀ニ付、郡奉行評儀差出候書面之通、連々手酒捌方相進、他所酒減候様可取計候、先此節ハ評議之通心得候様承付可申付候

申七月

同年九月

〔朱筆〕
〔十二〕
申九月
風烈ニ而潰家・半潰等相成候者之手当之義
伺ニ付、申付候書付

風烈ニ付、潰家・半潰家等相成候もの、手当下方之儀ニ付、郡奉行伺書差出候、類焼とも聊違候得共、何れ修復足合ニ相渡候様程合見計、時宜次第取計有之候様存候、奉行ニも取調可伺候、老ともにも致評議、此上ハ不及伺、直夫々取計可申付候事

申九月

〔朱筆〕
〔十三〕
申九月
家中風破手入之儀書付

此度士輕共風難ニ而、本潰・半潰ニ相成候内、造作ハとも角も素建

迄之處ハ、何れ上分いたし遣候様存候、士以上ニ候とも、自力ニ而者急ニハ不及事ニ存候、左候迎、日数其俣ニいたし置候得者、古材建起候ニも殊受ニ惡鋪、却而新造之儀ニも致り可申、別而難義之事故上分早々手廻し次第建起し遣候方と存候、門・塀・其外小破之分ハ、其分限ニ応し、自力ニ而も可致候、本家も潰候ニ而本潰程ニ成候、又ハ破損所、多分ハ是又上より手入いたし遣度候、右等評儀いたし、不遅様取計有之方と存候

申九月

同年十月

〔朱筆〕
〔十四〕
申十月
村々騒立候時、人数并心得方之儀書付

先日甲州村々騒立申候、此節三州村々騒立届所々分出申候、遠州先穩ニ候得共、近所之事故、如何様惡徒共之勸可騒立も難計、甚心配之事ニ有之候、領中穩候と茂、近領御料杯騒候得者、必加勢人数申来次第可差出事ニ付、小田原ニ而も先日差出申候、御役中とても無差別候間、其向々江者内ニ用意申付置、其外出張手当相調置候様存候、付而ハ玉込鉄砲等相用候事ニ有之候、則別紙之通ニ而閑なるハ伺之上も可用差懸候得者、玉込ニ而相払、其趣届差出不苦候、怪我人・死人、或ハ召捕人之数等も、委細可届事ニ有之候、右様之義候ハ、何れニも不手際無之様働可申候、且私領騒立候とも、理解

二而不治節者、同様之^(マ)有之候、聊不便断之儀無之様ニと存候、其為別紙式通為心得遣申候

右之趣、此節甚心配ニ有之候間、存寄も無之候ハ、及承度候、中々別而浜松へ申遣候様いたし度候、尤加勢申人数一手へ惣奉行彦人・物頭三人位、其外士分足軽人数小役人等可相準、郷夫をも別段召連候、此節諸家之届、大抵其当りニ有之候、先々住居次第多少ハ可計候、物頭不足候ハ、仮役ニも申付、組足軽之分茂、諸仮役又者小役人等引上、人数相揃候様可相成哉、鉄砲計ニも無之、銘々得物持参候義勿論之事ニ有之候

申十月

御別紙

〔十五〕^(朱筆)浜松江村方騒立之義、昨夜申付候、右ハ他領之義ハ致方無之、私領之騒立候元ハ、他ハ無宿・浪人入込、其者臥留ことより起り候由相聞申候間、領中へ無宿者不立入候様、先精精可申付候

申十月

村々騒立候儀聞込之処、申遣候書付

〔十六〕^(朱筆)先日領中騒立候者、取計方不手際無之様ニと申遣候得共、一体ハ不騒立候様可取計事専ニ有之ハ、家中在町とも夫食之處、米計ニも無之、雑穀ニ而茂可也行届候様、上ハ可致手当、其上在町

とも富裕之者は、銘々身分相応施行等いたし候様可相触、別ニいか様とも進方手段も可有之候、何れニも不騒立様取計等専要存候一岡崎城主ハ、二手ニ人数差出候処、在邑中ニ付、外ハ加勢申来、幾手も人数差出候由、岡崎手計ニ而召捕、人数千人近之由、其外打払玉込鉄砲等相用候間、即死人も有之由、未だ届は不出候得共、廻村方ハ申出候、此外荊谷・西尾等、其余ニも手合候分ハ、何も召連人数有之、追々届出候

一尾州領ニ而者、徒党人数之内へ隠密方相加へ、一同ニ相成、手合之時、頭取召捕申候、其外百姓共利解等^茂申聞候間、大分治り方宜鋪由相聞候

一右、何れも甲州無宿者・浪人なと相集り、先甲州を騒立、夫ハ三州へ移り候由、信州も騒、玉込鉄砲之届、小室ハ出し、松平伊賀ハも届出申候、右様之儀ニ而、甚心配之事有之候、廻村方見分之處ニ而者、三・遠共米穀払底、浜松領も当城内ハ不騒立様之手当者有之由候得共、未だ何とも不見当由申来候、領中ニ而も、少々宛寄合候由相聞申候、此上不騒立様、手段第一存候

右者、心得ニ申遣候、此上城変之取計可有之候、何も不都合無之様いたし度候事

申十月

猶以、大坂茂当月初メ、米屋共十四・五軒打毀申候、何国も人氣騒立居候間、甚心配之事ニ有之候

〔朱筆〕
「十七」

申十月

小普請之輩、撰挙年限定稿

小普請之輩、是迄者祝事等有之節而已撰挙有之候得共、無事之間者出身も不相成義と心得候而ハ、各稽古事等之励も薄、自然惰氣ニも相成、却而風俗之害多有之候、依之以来は五年目々々に文武及第いたし、拔群之者は撰挙候様存候、左候ハ、右年間茂自然文武無怠慢可相励候、何れも無存寄候者、以後右之定ニいたし、及第之法は嚴重ニ相立、其節拔群之者は、忝人ニ而も忝人ニ而も撰挙候様可致候、尤小普請之輩江も、此節ハ其断申渡置、猶又無油断文武相励候様、可為心得候事

一及第之法は、文武掛族奉り取調可申越候事

申十月

〔朱筆〕
「十八」

申十月

歩横目共、支配改革之儀書付

歩横目共義、当時者目付共一統ニ而支配いたし候得共、往古は目付忝人ニ付歩横目何人ツ、と相分、銘々手附ニいたし奉之、調等は其手附へ申付候事之由は、強而復古之趣意ニも無之候得共、此度存寄有之候間、当時在勤之歩横目共、何人ニ而も新古無優劣三分ニいたし、目付共銘々手附ニいたし奉り之用向可為調候、尤、

表向役所ニ付而之儀は無差別、一同ニ可為勤候事

但、当時目付共三人ニ候得共、此後増人等申付候とも、歩横目人数ハ、別ニ増人等不申付、有来之人高二而、四分五分ニも可致候事

一江戸表者人数少ニも有之候間、先是迄之通居置可申事

右之趣、大目付・目付へ可申付候、彼是不都合之趣等可申出候得共、存寄有之申付候事ニ付、何れニも右之通改革候様申遣、早々人数割・名前・新古勤年数等書加、誰々手附之趣認差出候様いたし、此度之返事便ニ改革相済候義可申越事

申十月

〔朱筆〕
「十九」

申十月

歩横目共、支配改革ニ付、心得之儀申遣候書付

歩横目共支配改革之儀、老共存寄も可尋處、聊見込候義も有之候間、致治定申付候、万一後年ニいたり差支之義も出来候ハ、其節可有勤弁候、為心得申聞候、目付共へ漏洩候筋ニハ無之事

申十月

〔朱筆〕
「二十」

申十月

仕置下知書清書帳之儀申遣候書付

仕置下知書清帳之内、天保四年之分無之候間、三年之末へ綴入、
月日も直し差越候様可致事

「同年十月御勝手へ被成下」(朱筆)

〔朱筆〕
〔廿一〕

申十月

早稲・中稲蒔上居引之儀書付

領分村々早稲・中稲蒔上三分五厘之居引申付候手續書、代官共差
出候、当年柄別而上下都合ニも相成、下方ニ而ハ願以前申付候段
氣受も可然候、此上晚稲之分も、成丈右之通致し、檢見願出候分
ハ、不得止巡檢も可仕候、并平年迎も一体ハ居引之方上下都合ニ
ハ可相成候、是者当時不用之儀ニ候得共、序ニ候、明年之覚悟ニ
も可相成哉、申聞置候様ニと存候事

申十月

《Summary》

Kankenroku and Hamamatsukokurinroku (4):

Transcription

By Naomi KANZAKI

This is the last part of the Hamamatsu Domain's statute book, "*Kankenroku and Hamamatsukokurinroku*," of which parts 1-4 were previously reprinted and published. This part includes Vols. 7, 8, 9 and 10 of "Hamamatsukokurinroku," 103 statutes from January 1832 to October 1836. This book was issued when Tadakuni Mizuno was the feudal lord and then edited for his son Tadakiyo who later became the next lord. It was used not only for Hamamatsu Domain but also for Yamagata Domain where Tadakiyo was transferred. Therefore, it is a suitable material to study the statutes of any Domain which went through the transference of a feudal lord.